

平成30年度 抵抗加熱技術部会見学会 マツダミュージアム 見学記

- 1.日 時：平成30年6月29日（金） 10時30分～12時
- 2.見学場所：マツダミュージアム <http://www.mazda.com/ja/about/museum/>
- 3.説明者：岸本 様
- 4.出席者：17名（事務局含む）
- 5.概要

前日午後、中国電力殿本社の会議室をお借りして第38回抵抗加熱技術部会を開催し、翌29日の午前中にマツダ株式会社のマツダミュージアムを見学した。

当日朝はJR広島駅から岡山方面に二つ目の向洋駅に集合して、徒歩5分のマツダ本社受付に伺った。受付のホールには輝くCXシリーズなどが展示されていて、車好きでなくてもこれからの見学に胸が高鳴った。

マツダミュージアムは、マツダ株式会社本社工場の敷地内にある一般公開されているミュージアムである。受付のある本社ビルからバスで構内を10分程移動する。移動中、本日の案内を担当して下さった岸本様から、車窓から見える工場内の様子を紹介していただいた。技術習得のために構内に設立されたマツダ工業技術短期大学、1万1千台収納できる製品庫、マツダが所有する大変大きな東洋大橋等々。

ミュージアムは、「エントランスホール」、「歴史展示」、「RE（ロータリーエンジン）展示」、「技術展示」、「U1組立ライン」、「未来展示」の六つのゾーンで構成されており、これを順次案内していただいた。「エントランスホール」で会社紹介のビデオを視聴した。1945年8月6日は創業者松田重次郎の70歳

の誕生日だったが、その4か月後には三輪トラックの生産を開始し、走る車で広島中に笑顔を取り戻したということに感銘を受けた。「歴史展示」では、1920年に東洋コルク工業株式会社として創立といった社史の説明と、コスモスポーツなどマツダを代表する歴史的モデル車の展示があった。「RE展示」では、ル・マン24時間耐久レース総合優勝の「787B」の展示やREのモデルなど。「技術展示」では特に「SKYACTIV TECHNOLOGY」(注)でブレイクスルーしたとの説明が興味深かった。「U1組立ライン」では見事な多品種混合生産ラインに目を見張った。「未来展示」では、「技術開発長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」」をもって、クルマを通じて美しい地球と豊かな人と社会の実現を目指すとの説明があり、例えばCO₂削減でもウェル・ツー・ホイールで削減する考え方を取り、2050年には対2010年90%削減するという高い目標を立てている。このゾーンの最後で、ハイブリッド車を含む内燃機関自動車は2035年でも世界で約84%を占めると予測されることを踏まえ、まだまだ内燃機関を含む多様なソリューションの追求をするとの説明が印象に残った。

あくなき技術への挑戦と車で人にときめきを与えてでも表現できるでしょうか、マツダのクルマづくりの哲学を肌で感じ取れる素敵なミュージアムでした。

(注) マツダは、クルマの基本を白紙に戻し、すべてをゼロから作り直すという、大きなチャレンジを選択しました。そうして生まれたスカイアクティブテクノロジーには、マツダが目指すクルマの未来が表されています。

(マツダ株式会社ホームページより)



写真 1. 本社受付 1Fホールにて



写真 2. 説明を受ける部会委員



写真 3. RE モデル



写真 4. エントランスホールにて